

平成24年度未来の京都創造研究事業 研究だより

第6号

本事業は、大学の若手研究者等と京都市の担当部署が協力しあって調査・研究を進めることで、京都市の政策や事業に生かすことのできる、より実践的な研究成果の獲得を目指して昨年度から公益財団法人 大学コンソーシアム京都が京都市と共同で行っている事業です。

今年度の最終号となる研究だより第6号では、3月19日（火）に実施しました「成果報告会」と引き続き行われた「交流会」の様子をお伝えします。

成果報告会

<発表タイトルと発表者>

- ①「家族介護者の仕事と介護が折り合う環境（ワーク・ケア・ライフ・バランス）の実現に向けた支援策の提供」
立命館大学産業社会学部 斎藤真緒准教授
- ②「4地域を通して考える地蔵盆 ～世代間の伝承と地域コミュニティの機能～」
京都精華大学人文学部 真下美弥子教授
- ③「地蔵盆の運営実態と地域のレジリエンス向上に果たす役割に関する研究」
京都大学工学研究科 前田昌弘研究員
- ④「京野菜（地場農産物）でつながる洛中洛外ネットワーク：地産地消の過去・現在・未来」
同志社大学経済学部 三俣延子助教
- ⑤「修学旅行の訪問先が大学進学に与える影響の分析と大学の魅力発信の方策 ～修学旅行生および大学在校生に対するアンケート分析等を事例として～」
平安女学院大学国際観光学部 井上学准教授
- ⑥「二条駅周辺の再開発とまちづくり ～『立地創造』の視点から～」
立命館大学文学部 加藤政洋准教授

<会場の様子>



午後6時から8時5分まで開催された報告会には、研究者、市民、学生、京都市職員など合わせて約80名が参加されました。平日の夜にもかかわらず参加していただいた皆様、ありがとうございました。

2012年7月から、実質9カ月の調査・研究期間でしたが、各研究グループは精力的に取り組まれました。また、京都市の各担当部署には研究者へのデータ・情報提供、実務担当だからこそそのアドバイスなどをさせていただきました。これらを研究成果に反映することで、実践的かつ学術的な成果が獲得できたと思います。

なお、当日の報告は、専門分野とは違う方にも理解してもらえようわかりやすく説明していただきましたが、一人15分という限られた時間での発表だったため、分析結果を詳細にお伝えすることができなかったかもしれません。最終的な調査・研究の成果をまとめた報告書は5月をめどに作成します。大学コンソーシアム京都のホームページでも公開しますので、楽しみにお待ちください。

交流会

<概要>

交流会は午後8時10分から9時まで、研究テーマごとにテーブルでまとまり、発表された内容についての感想や参加者自身の経験・意見などを述べていただきました。

5テーブル（地蔵盆は二つの研究グループが合同）には9～13人が着席し、軽食をつまみながら肩肘張らず率直に語りあいました。

<会場の様子>



研究代表者を取り囲むかたちで、他大学の研究者、学生、市民、NPO、企業、市の担当職員などが所属の枠を超えて約50名が参加、各テーブルではざっくばらんに話し合いがなされ、大変盛り上がりしました。

この交流会の目的は、普段知り合えない人たちと面識をもってもらい、今後のそれぞれの活動に活かしてもらうこととしています。したがって、今日議論されたことから結論を導き出すということはありませんでした。さまざまな視点から多角的に見たことや、自分とは異なる分野の人が感じたことを知るということ自体に意義があると考えます。

交流が主目的という観点からは、ある程度目的が達成されたと思いますが、1時間に満たない議論では不十分だったかもしれません。そういう意味では、行政と研究者、研究者と市民など新たなネットワークがこの日に創られましたので、各参加者にはネットワークを活用したこれからの取り組みに期待したいと思います。

編集後記

長いようで短かった、短いようで長かった1年が終わろうとしています。今年度は5テーマ計6件の研究を並行して進めてきました。研究代表者はもちろん、市の各担当者、アンケートやヒアリングに協力していただいた方々など本当に多くの協力を得ました。深く感謝いたします。でも評価を頂戴するのはこれから。絵に描いた餅とならないよう、また自己満足に陥らないよう、最後の報告書作成・HPでの情報公開までしっかりやりたいと思います。また来年度にお会いしましょう！！

ご意見・ご感想は、以下の問い合わせ先まで、お気軽にお寄せください。

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 高等教育研究推進事業部 シンクタンク事業
担当：水田（みづた）、鳴海（なるみ） E-mail：mirainokyoto@consortium.or.jp
Tel：075-708-5803 Fax：075-353-9101